



アルテ・プラザ会長

坂田芳乃氏



プロフィール

元静岡県立美術館副館長 2018年、アートと地域をつなぐことを目的に、市民団体「アルテ・プラザ」を設立。「アートと子ども」「アートと地域のコーディネート」「地域の未来の人材応援」等の活動に取り組んでいる。

「アート思考」が育つ街の実現のために

「アートと地域をつなぐ」役割を担おうと2018年から活動をはじめたアルテ・プラザ会長・坂田芳乃氏にお話を伺いました。
——アルテ・プラザの活動について教えてください。

アルテ・プラザは三島市を中心に、地域のアーティストを支援し、アートと地域をつなぐことを目的として設立しました。両者の連携を通じ、様々な場でアートに出会い豊かな生活ができる「アートフル」な地域を目指した事業を企画しています。

現在は、保育や幼児教育にアートの視点を入れた取り組みや、未来を担う人材を地域で育てる応援講演会やワークショップの開催、静岡県東部を軸に「アートと地域のコーディネート」活動を行っています。

苦手な美術の壁が外れた 県立美術館での経験

——どのようなきっかけで活動を始めたのでしょうか。

住まいは三島ですが、定年まで静岡県職員として静岡市を中心に働き、最後の職場が静岡県立美術館でした。それまで美術は苦手で距離をおいていたので、美術館への異動を聞いた時は正直ショックでした。

とをやりたいと思う人が、知恵やノウハウを出し合う場を考えていきたいですね。

アルテ・プラザにはアートに力のある人たちが集まっています。それが私たちの強みですし、地域と連携することで力を発揮する団体だと思います。

三島は市民活動が盛んな地域ですが、市民団体も協働による新しいことに挑戦する時代になっています。アーティストや市民団体が持っているノウハウを集める拠点が地域があれば、アイデアが出やすく、企業や大学等と繋がれば、新しいビジネスや価値も生まれるでしょう。

21世紀は地域の価値を高める時代です。アートと地域をつなげ、人と人の絆を大切にマネジメントできれば、「未来思考の新しい価値を持つ地域づくり」に挑戦できると思っています。

それでも美術館で働いていると、日常の業務で聞く芸芸員の作品に対する思いや美術解説は、わかりやすく関心を抱かせてくれ、次第に美術に感じていた壁が外れていきました。それまでは美術は遠い存在だと思っていましたが、いつの間にか自分の生活の中に近づいてきたんです。

この経験は、多くの人、特に子どもに必要だと直感しました。堅苦しいような美術館に来る子どもは少なく、もっと気軽に来てもらえるきっかけになれば、静岡県の小学生が県内のミュージアムに無料入館できる「しずおかミュージアムパスポート」製作など、キッズアートプロジェクト事業を立ち上げ、現在も続いています。

6年間の美術館勤務でしたが、今につながる大切な職場でした。もし美術館に異動しなかったら、三島にアートで何かできないかなんて考えもしなかったでしょう。

——子どもへの取り組みが重要と考える理由を教えてください。

今、企業もグローバル化の波の中で、これまでのロジック思考で商品価値を高めることに限界を感じています。新たな切り口として、自由な発想や独創性を活かす「アート思考」が必要とされ、子ども時代にこの思考が育つ環境が望まれています。

自然に「文化」を感じられる三島のために

——文化的な街とはどんな街でしょうか。

文化は、生活の中で育まれてきており、身近に感じますが、文化的な街や文化都市を改めて表現するのは難しいですね。

三島市は、「文化に出会うきっかけづくり」「文化環境を育む環境づくり」「文化を通じたまちの魅力づくり」に取り組み、文化都市としてアピールできる内容をさらに充実することで、三島は文化度が高い、この地に住みたいと思ってもらえるようなまちづくりにも繋がると思っています。それは、普段から文化や芸術に接することができるような仕掛けと工夫が必要です。

わざわざ足を上げて「文化」の敷居を跨がなくても、自然に「文化」を感じられる街になるよう、アルテ・プラザも応援していきたいですね。

「アート思考」ができる人材を育てる

ところが教育の現場では、依然「今日は○○の絵を描きましょう」と教える側の目線でプログラムが行われることが多いようです。子どもが自由な発想を活かし、自らやりたいと思うことができるような教育環境も必要です。このような環境で子育てができる街であれば、大人にとっても魅力的に、その街に住むことが誇りになるはずです。

時間がかかることですが、アーティストが地域の中に入り、子どもたちが日常生活の中で美術や演劇などに当たり前に接することで、幼い頃から「アート思考」のできる人材が育ち、あしたの地域の人づくりに繋がると考えています。

実際、現場の幼稚園や保育園からは、子どもたちにもっといろいろな体験をさせたいという声をお聞きします。アート体験が盛んに行われても、一度限りの特別な体験では、継続的なプログラムには至らないように思います。子どもが普段からアートプログラムに触れる機会があれば、アート思考も自然に備わるのだらうと思います。家庭の中でアートの話題になったり、作品を観たりすることが日常になるといいですね。

——アートプログラムに参加した子どもたちはどんな様子ですか？

ワークショップ参加者の親御さんから、「子どもがこんなに何かに夢中になる姿は

未来思考の新しい価値を生み出す拠点へ

——今後の活動はどのように広がってきたいですか？

活動の実績を積み、多くの団体を巻き込んで、文化の拠点を作りたいと思っています。個人ではできなくても、複数の分野との協働で新たな展開につながるような未来思考のできる場です。まずは、アートに関わるこ



ワークショップの様子

アートと地域をつなぐ
アルテ・プラザ

https://arteplaza.club

アルテ・プラザ